

第8号
2026.8

永く生きる 建 築

～宮繕だより～



「福島県郡山合同庁舎」について（表紙の建物）

外観（東面）



用途	事務所
構造	鉄筋コンクリート造+鉄骨造+木造 免震構造
階数	地上3階建て+地下免震層
延べ面積	10,818.84㎡
供用開始	R8.6.22(月)

既存庁舎の老朽化や行政需要の増大に伴う執務スペースの不足などの課題に対応するため、利便性や安全・安心の確保と近年の社会環境の変化に適應するSDGsの理念を踏まえた新たな庁舎を整備しました。

基礎 躯体 内外装 設備 外構 完成

エントランス



庁舎のエントランスは3層吹き抜けとなっており、内部の階層が把握しやすい構成となっています。

1階に県中地方振興局及び農林事務所、2階に教育事務所、3階に建設事務所が配置されており、旧庁舎では分離していた執務室を階ごとに集約することで利用者の利便性を高めました。

建物全体で受け止めた風を内部に取り入れ、**ハイサイドライトから外部に抜ける**ように工夫がされています。

エントランスに設置した大画面のモニターには、庁舎内の空気の流れや地中熱利用の流れなどを表示し、職員及び来庁者が建物の**省エネ・再エネの取組**について**理解が深まる工夫**もしています。

モニター



太陽光発電設備
ハイサイドライト



免振ゴム



◇環境への配慮

太陽光や地中熱などの再生可能エネルギーを積極的に導入し、**「ZEB Ready」**を取得しました。

省エネの具体的手法としては、太陽光発電設備や蓄電池の設置、トイレ洗浄水への**雨水利用**、高効率な空調機器及び照明器具の採用、屋上への**ハイサイドライト**の設置等があります。

また、BEMS(Building Energy Management System)を導入し、エネルギー消費量を把握・分析してモニターで見える化することにより、運用改善と省エネに関する意識向上を図ることができるようにしています。

◇災害への備え

免振構造を採用しており、免振装置が地震の揺れを吸収し建物に伝わりにくくしています。

また、非常用発電機、太陽光発電設備、蓄電池に加え、受水槽及び排水槽、PHEV(PHV)やEVの充放電設備等も整備しているため、ライフラインが断絶しても3日間機能維持が可能です。

POINT ZEB Ready

ZEBは「Net Zero Energy Building」の略で、省エネにより、従来の建物で必要なエネルギーを50%以上削減するとZEB Readyとなる。

POINT ハイサイドライト

ハイサイドライトとは、側頂窓(高窓)とも言われ、壁面の高い場所に設けられる窓のこと。いずれの向きでも室内に採光を入れられるが、北向きに設けると直射日光を遮りながら年間を通して安定した採光を得られる。

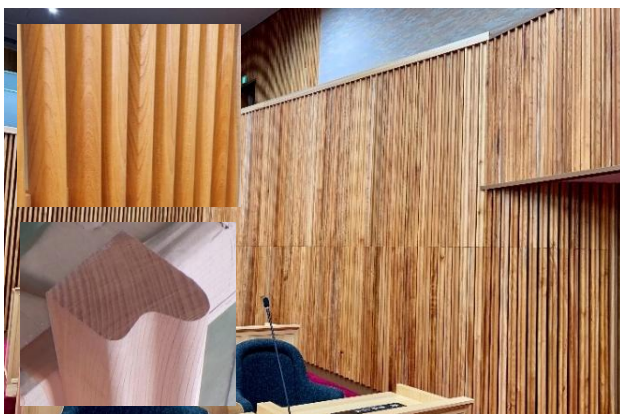
「福島県議会議場」について

県民の代表である県議会議員と行政機関である県が条例や県の予算などを審議する県議会の議場は、昭和29年10月の竣工から70年が経過し、内装や設備の老朽化、議場の狭さなど様々な問題を抱えていたことから、議場の輪郭を継承しつつ内装（天井を除く）・什器の全面改修が行われました。



本工事は、材料の調達を含めると令和5年から2年の歳月をかけて実施しており、県内の豊かな資材と優れた技術が採用されていますのでその一部をご紹介します。

- 1 **継承** 正面の屏風や側面のルーバーなどの70年前の象徴的なデザインを再現
- 2 **素材** 多様な県産木材（樺・檜・杉・桐）を内装・什器に採用し、県内技術を積極的に活用
- 3 **調和** 各素材の調和を図りながら、洗練された明るい議場を創出



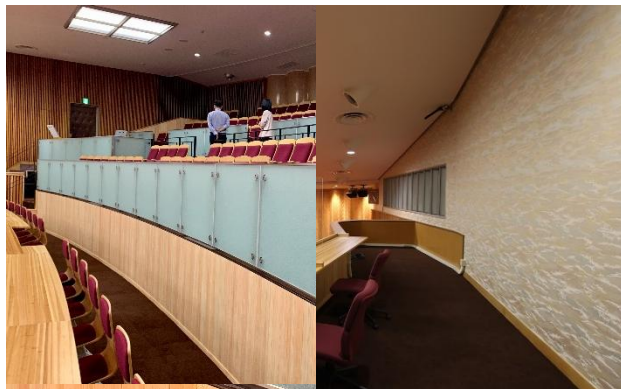
◇内壁ルーバー 県産の「**樺(カキ)**」

70年前の議場に整備されたコペンハーゲンリブと言われる複雑な形状のルーバーを福島県産「**樺**」の無垢材を使って再現し、議場の高い音響性能を継承しています。割れ、ねじれ、反りが発生する可能性があるため細心の注意を払って製作されました。

◇什器 県産の「**檜(ヒノキ)**」と「**杉**」

執行部席・議員席に中通りの「**檜**」、傍聴席には浜通りの「**杉**」を使用しています。

日本の北限とされている福島県産「**檜**」は、年輪幅が細かく強度と耐久性に優れた八溝山系の大木を選定した上で伐採し、製材、加工、塗装までひとつの工場で製作されました。



◇壁紙 県産の「**桐(キリ)**」

正面の屏風状の壁は既存下地を解体し、桐壁紙の寸法に合わせて折り目（出隅、入隅）の間隔を変更して造り替えられました。光の当たり方や見る角度により表情を変える桐壁紙は、県内企業が会津産の「**桐**」を使い、伸びやかで崇高な樺をイメージしたオリジナルデザインです。曲線形状のパーツを重ねたり隙間が無いよう手作業で製作されました。

◇手すりガラス

内装解体後に躯体等を詳細に計測し、支柱のディテールを徹底的に検討することで、現場加工できない強化ガラスが美しい曲面に見えるように設置されています。

◇織物クロスの袋張り

既存と同じ技法の袋張り（布地の下に和紙とクラフト紙を重ねている）で仕上げられています。

「みなみあいづ支援学校」が完成しました。

外観（西面）



用途 特別支援学校
構造 木造（大断面集成材ラーメン構造）
階数 地上2階建て
延べ面積 2,224.29㎡

南会津地域には特別支援学校がなく他地区に遠距離通学したり、福祉施設等への入所をしなければいけなかったことから、南会津町に小中高一貫した教育支援ができる特別支援学校を整備しました。

◇ふれあいホール

中央に配置されたふれあいホールは、施設全体の**リビングルーム**として、児童・生徒の交流拠点となることを期待して整備しました。



ふれあいホール

GIR工法



◇GIR工法

構造は大断面集成材ラーメン構造を採用し、集成材の柱や梁をつなぐ接合部分にはグルード・イン・ロッド工法（GIR）工法が用いられています。この工法は、柱や梁の接合部の集成材に孔を開け、鉄製の棒鋼を通し樹脂を注入して固定するもので、表面にボルトやプレート等接合部材が表れないため、**木の美しさを活かす**ことができる接合工法です。

編集後記

郡山合同庁舎が完成し、新しい庁舎での業務が開始されました。一般に広く開かれた庁舎ですので、皆さんもぜひ訪れてみてください。

また、議会議場は営繕課でなく施設管理課の業務ですが、同じ建築関係職員が工夫を凝らし、県内の豊かな資源と優れた技術を取り入れたことで、荘厳な雰囲気を実現しています。こちらも議会中に手続きを経れば傍聴に訪れることができます。

発行については土木部メールマガジンでもお知らせします。メールマガジンの配信を希望される方は、【土木部メルマガ希望】と書いて送信してください。

doboku_mailmagazine@pref.fukushima.lg.jp

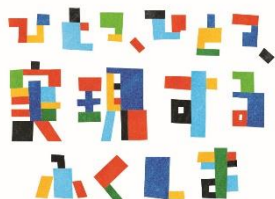
【永く生きる建築～営繕だより】のバックナンバーは、営繕課のHPに掲載しています。

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/41065c/nagakuikirukentiku.html>

【ふくしま建築探訪】 <https://fukushima-kenchikutanbou.jp/>

【福島県建築・設備技術職案内】

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/41065a/prwng.html>



問い合わせ先

福島県土木部営繕課 〒960-8670 福島県福島市杉妻町2-16（本庁舎4階）
電話 024-521-7530（直通）FAX 024-521-7717